

巻頭言

支部長 新屋 保則



患者家族の皆様お変わりありませんか。

昨年は、コロナで始まり、コロナで終わりましたがまだ収束されていません。

患者家族の皆さんは、通院療養に苦慮されている方が多いのではないのでしょうか？

コロナが早く収束されて、支部の活動が出来る事、絆サロンも早く開催出来る事を願っています

1月に北海道新聞社が、ALS(筋萎縮性側索硬化症)を5回連載で「苦しみの先に、ALSと生きる」を企画され報道されました。

ALS 当事者、家族、遺族が病気に対する思いや療養中の悩み等が紹介され、道民の皆様の反響にはとても驚きでした。

活字の力は強く、大勢の道民の皆さんがこの病気 ALS(筋萎縮側索硬化症)について、病気の理解が深まったと思います。

この企画をされ、早い段階から取材を行っていた担当記者の上田様には心から感謝申し上げます。

又、当支部の活動にご協力いただいている音楽療法研究会「歌の翼隊」の活動が、最初は北海道内でテレビ放映(NHK)され、反響が大きいため2月15日ハートネットで全国放映されました。

全国の患者・家族皆様始め多くの方々に音楽療法の活動が紹介されたことが嬉しく思うとともに皆様心が癒された事と思います。

「音楽の翼隊」の皆さん有難う御座います。

報道機関の皆様心からお礼申し上げます。

支部運営委員の皆様何時も患者の皆様の生活に寄り添いいただき日々の御尽力有難う御座います。

コロナの影響で、中々支部の活動が出来ない中、12月上旬帯広市において、介護職員等による「喀痰等吸引の研修」を実施しました。

新型コロナウイルス感染防止対策に努め、無事に終了しました。

担当された運営委員の皆様有難う御座います。

今後も北海道支部では{特定の者} 第三号基本研修と絆サロンを実施して参りますのでよろしくお願い致します。

まだまだコロナの影響で運営委員の皆様にはご苦労お掛けしますが宜しくお願ひします。

立春を過ぎましたが、まだまだ厳しい寒さが続きます。

どうぞ、新型コロナウイルス感染対策を充分取っていただき、患者・家族の皆さん始め運営委員の皆様にはお体ご自愛下さい。